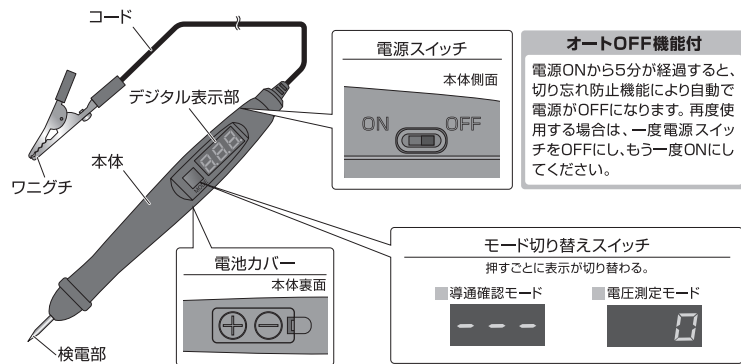


# 取扱説明書

## 製品仕様

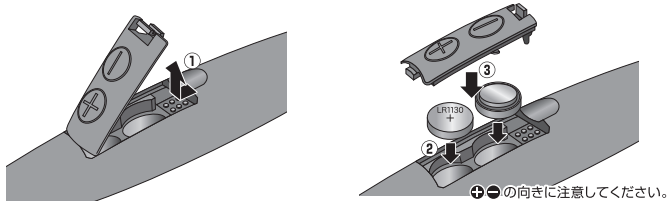
- DC12V車専用
- コードサイズ: 0.5sq×80cm
- 使用電池: LR1130×2個
- 使用可能電圧: DC18V以下
- 使用可能温度範囲: 5~45℃

## 各部名称



## ボタン電池の入れ方

下記イラストを参考にボタン電池を入れてください。  
電圧が測定できなくなったり、デジタル表示が見えなくなった場合は、電池を交換してください。

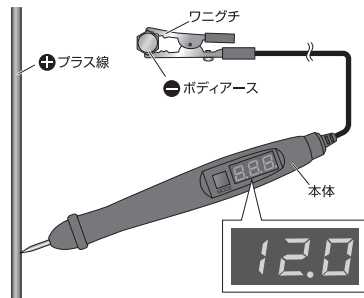


※ 付属のボタン電池は動作確認用です。使用する際は必ず新品のボタン電池に交換してください。

## 通電確認

コードの電圧を調べ、通電しているか(電圧がかかっているか)を確認できる

- 電圧値を知り、正しく電源を分岐したい。
- 常時電源・ACC電源を判別したい。
- バルス信号線を判別したい。
- メーターなどの照明色を変更する際、照明用の電圧値を知りたい。



### 4 デジタル表示を確認する。

通電している場合	通電していない場合
通電している場合は電圧値が表示されます。 ※ チェックする配線により表示される電圧値は異なります。	通電していない場合は表示が変化しません。

### バルス信号線の場合

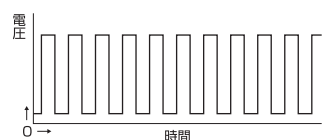


バルス信号線の場合は表示される電圧値がランダムに変化します。

### バルス信号線とは

電圧や電流の断続により、車速や回転数などの情報を伝えている配線のことです。電圧値が絶えず変化しているため電源取り出しには適していません。

電圧変化と時間経過のグラフ



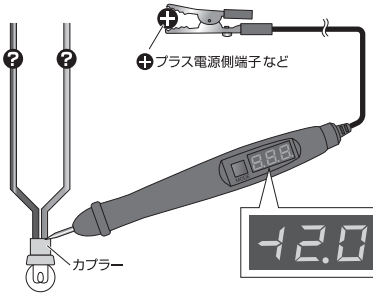
測定可能電圧を超えると「OL」と表示されます。その場合、該当箇所での電圧確認はしないでください。「OL」と表示された箇所では検電をおこなうと、発熱により本製品が故障するおそれがあります。



## 極性確認

コードの電圧を調べ、極性を確認できる

- ルームランプ・ドアスイッチ連動のマイナス線を特定したい。
- カプラーから出ているコードの極性を確認したい。



- 1 チェックする電装品のスイッチをONにする。
- 2 本体の電源スイッチをONにし、モード切り替えスイッチで電圧測定モードにする。
- 3 ワニグチでプラス電源側端子などはさむ。  
※ ビニールテープなどを使用し、ワニグチと絶縁してください。  
**⚠** ワニグチが金属部分に触れないよう注意してください。ショートの原因となります。
- 4 テスターの先端をチェックするコードの端子部に接触させるか、コード自体に刺す。  
※ コード自体に本製品の先端を刺して検電した場合、必ず絶縁テープなどでコードを保護し、同じ箇所でも再検電しないでください。

### 5 デジタル表示を確認する。

「マイナス表示」の場合	「0表示」の場合
マイナスの電圧値が表示された場合、6の作業をおこない、最終確認をしてください。 ※ チェックする配線により表示される電圧値は異なります。	表示が変化しなかった場合はプラス極性です。

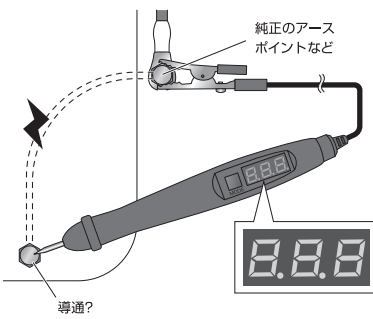
### 6 電装品のスイッチをOFFにして、デジタル表示の変化を確認する。

「0表示」の場合	「マイナス表示」の場合
マイナス極性です。	アース線です。

## 導通確認

車両のボルトやコードなどが導通しているか(電気が流れるか)を確認できる

- ボルトがアースポイントかどうか判別したい。
- 断線箇所を特定したい。



⚠ チェックする配線・機器の電源は必ずOFFにしてください。

- 1 本体の電源スイッチをONにし、モード切り替えスイッチで導通確認モードにする。
- 2 ワニグチで車両の純正アースポイント(ボルト部)などをささむ。
- 3 テスターの先端をチェックするボルトに接触させる。コードの場合は端子部に接触させるか、コード自体に刺す。  
※ コード自体に本製品の先端を刺して検電した場合、必ず絶縁テープなどでコードを保護し、同じ箇所でも再検電しないでください。

### 4 デジタル表示を確認する。

導通している場合	導通していない場合
3で調べた箇所とワニグチではさんだ箇所の間が導通している場合は「8.8.8」と表示されます。	アースポイントではない場合や断線している場合(導通していない場合は「---」)と表示されます。

### 断線箇所の調べ方

テスター本体とワニグチを使用し、電装品や接続箇所の間を1箇所ずつ調べてください。「---」と表示された箇所が断線箇所です。

